

2020 年 3 月 19 日

通貨ニュース

ブラジル: ついに利上げに転じた BCB

ブラジル中央銀行(BCB)は 17 日、政策金利(翌日物金利、Selic)を過去最低水準の 2.00%から 2.75%に 75bp 引き上げること全会一致で決定した(図表 1)。足許では、財政および構造改革の先行き不透明感に BRL が急落し BCB が為替介入を余儀なくされていた(図表 2)。また、インフレ率(IPCA)が 4 か月連続で BCB 目標(2020 年:4.00%、2021 年:3.75%)を上回っており、利上げ観測が高まっていた。もっとも、利上げ幅は市場の予想(50bp)を上回った。

声明文では、以下のパラグラフが追加され、経済の持ち直しと BCB の目標(2021 年:前年比+3.75%、2022 年:同+3.50%)を上回るインフレ見通しが利上げの理由であることが示された。

The Copom members consider that the current conditions ceased to prescribe an extraordinarily stimulus. GDP ended 2020 growing strongly at the margin, recovering most of its first-semester decline, and inflation expectations rose above target at the relevant horizon for monetary policy. Additionally, inflation projections increased to levels close to the upper bound of the target for 2021.

実際、BCB による市場サーベイ(3 月 12 日時点)によれば、市場参加者の 2021 年、2022 年のインフレ率(IPCA)見通しは、それぞれ前年比+4.6%と同+3.5%となっている(図表 3)。また、現状の為替レートと同市場サーベイの政策金利見通し(2021 年末:4.5%、2022 年末:5.5%、図表 4 参照)を前提にすると、インフレ率は 2021 年に前年比+5.0%、2022 年は同+3.5%と BCB は推計している。

そして、将来のインフレ水準を目標に合致させるうえでは、利上げに踏み切ることが理に適うとした。一時的なソーシャルディスタンスの強化によって見直されるものではないことも示唆されている。

In the Committee's evaluation, a swifter adjustment has the benefit of reducing the probability of not meeting the inflation target in 2021, as well as of keeping longer horizon expectations well anchored. Additionally, the broad set of information available to the Committee suggests that this strategy is consistent with meeting the 2022 inflation target, even if social distancing increases temporarily.

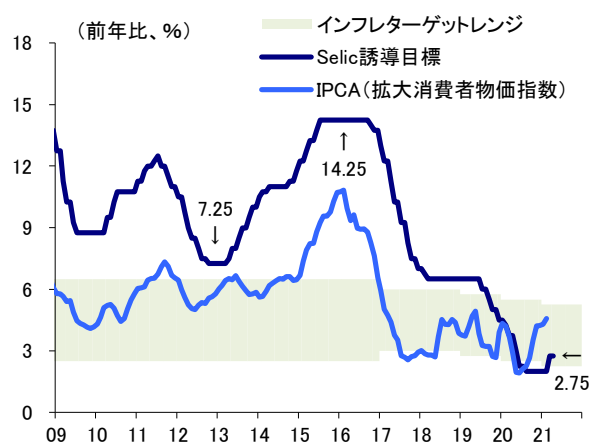
さらに、以下にある通り、インフレ見通しに大きな変化が見られない限り、BCB は次回会合(5 月 5 日)でも同程度の利上げを見込んでいたとした。

For the next meeting, unless there is a significant change in inflation projections or in the balance of risks, the Committee foresees the continuation of the partial normalization process with another adjustment, of the same magnitude, in the degree of monetary stimulus.

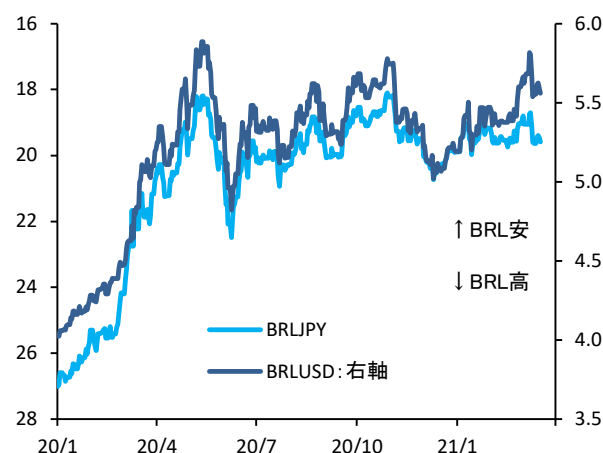
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

なお、最後の結びではインフレ動向だけでなく、経済情勢やリスクバランス次第としている。例えば、今回の声明文の内容は、多くの部分で前回会合から変更・追記が行われたが、一方で財政及び構造改革を巡る不確実性が利上げを促しうる点についての記述はそのまま残された。次回会合の利上げ幅は75bpというのが基本線となろうが、引き続き同国の財政及び構造改革の行方が波乱要因となりそうな点には注意したい。

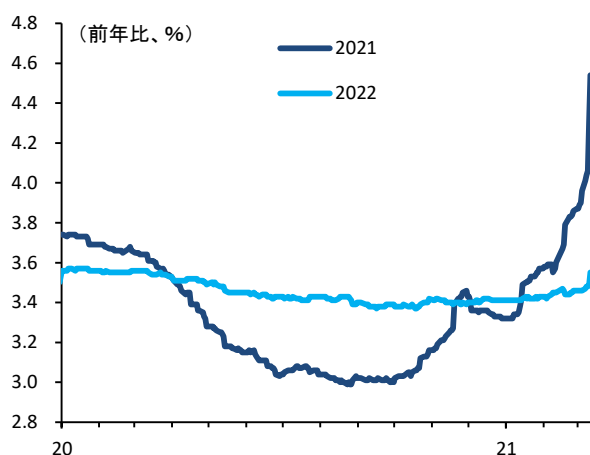
The Copom emphasizes that its view for the next meeting will continue to depend on the evolution of economic activity, the balance of risks, and inflation projections and expectations.

図表 1: 政策金利とインフレ率(IPCA)


出所: ブラジル中央銀行、ブルームバーグ、みずほ銀行

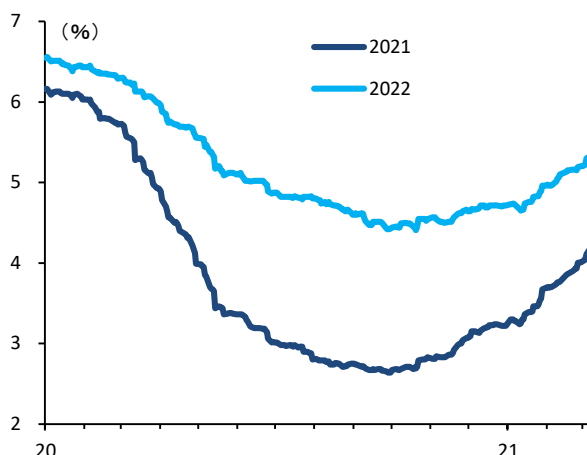
図表 2: BRL 相場


出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: BCB 市場サーベイ (年間 IPCA 見通し、予想平均値)


(注)2021年3月12日時点

出所: ブラジル中央銀行、みずほ銀行

図表 4: BCB 市場サーベイ (政策金利見通し、予想平均値)


(注)2021年3月12日時点

出所: ブラジル中央銀行、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。